

今、県下で問題となっている病害虫

病害虫防除所

防除が難しく、現在、問題となっている病害虫。

ミカンバエ

○日本の在来種であり、**カンキツ類に寄生**する。果実の完全着色後も**幼虫が内部に生息**し、外観上非寄生果と見分けがつかない。



果実に産卵中の成虫

果肉を食害中の幼虫

キウイフルーツ

かいよう病Psa3型

○**完全治癒は難しい**。特に感染力の強いPsa3型は**検定による診断と被害部の除去を徹底し、拡散防止に努める**。



葉に発生した病斑

漏出した赤褐色樹液

ビワキジラミ

○東予東部地域のビワで**新害虫**として確認された。**分布域が拡大**しており、**経済栽培地域への侵入が危惧**される。

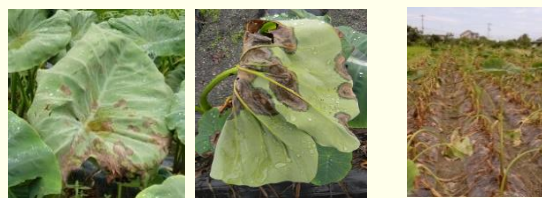


果実に発生した「すす病」

成虫(体長4mm程度)

サトイモ疫病

○夏期から秋期に発生し、葉では**灰褐色で円形斑点**、茎では**黒色のシミ状の斑点**が発生して**早期に枯死**する。**伝染力が強く、風雨によって短期間にまん延**する。



葉に発生した斑点

まん延した圃場

サツマイモ基腐病

○本県ではR3に初確認された。発病すると、**株の基部が暗褐色～黒色に変色**して地上部が枯死し、**塊根は首側から腐敗**する。**健全な苗・種芋の利用**を行い、発病が確認された場合は、**薬剤等による防除が必要**となる。



茎に発生した病斑

塊根の腐敗

その他、スクミリンゴガイ、イチゴのハダニ類、薬剤抵抗性対策等が直近の課題です。